

庭園文化研究分科会 (第1回) 視察会報告レポート

佐々木 慶一

1. はじめに

庭園文化研究会は、以前（平成22年：平田界限の視察、平成23年：松江界限の視察）も参加を希望していたが日程が合わず見送り、このたび初めて参加することが出来た。

今回の視察は、斐川の個人所有の3箇所（庭園1、2、3）、及び平田（斐伊川河口の右岸側）の松翠苑、計4箇所を見学し、併せて庭師（陰手刈り師）さんの説明を受けた。その視察内容について（庭園に関して初心者である）私の感想を交え、次節以降に述べる。

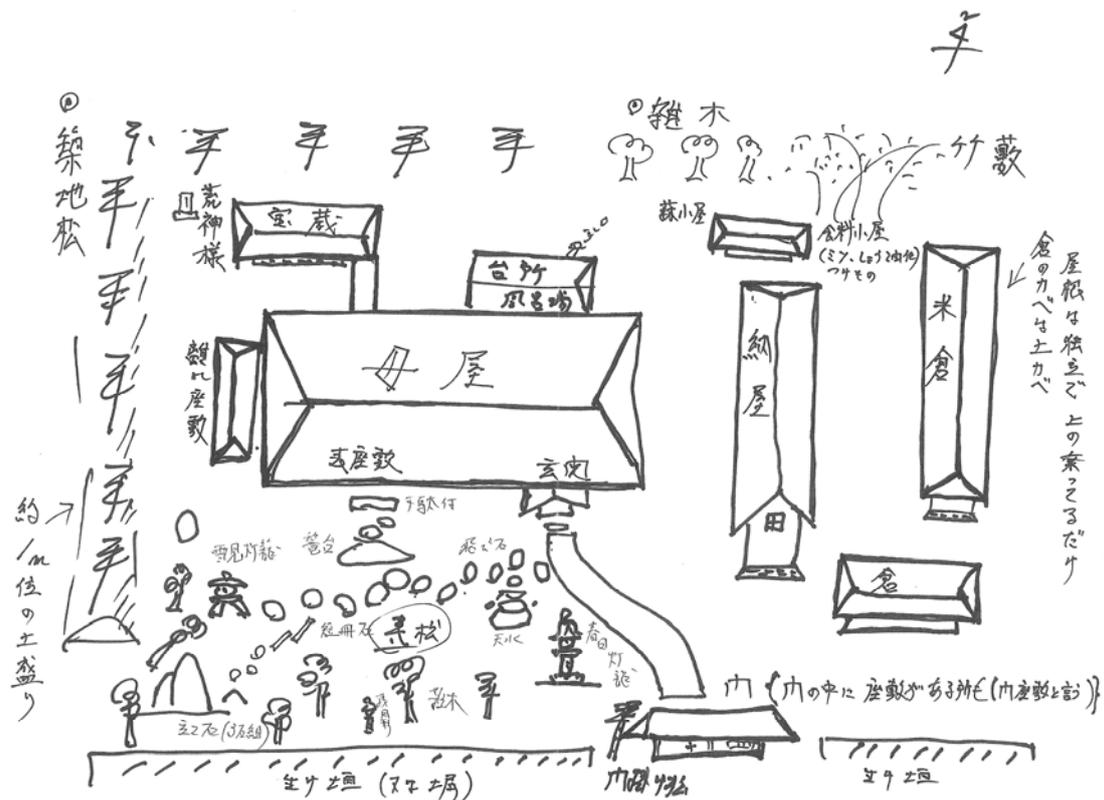
2. 三島庭師さんによる講義

屋敷内における建物（母屋・納屋・倉等）の配置、座敷内の諸設備の配置ルール、門から庭へのアプローチ通路、庭内の植栽や敷石の配置等について事前に講話を受けた。配布された6枚の図面是三島さんの手書き（うち2枚を図-1、図-2）であり、細かな謂れもリアルに記載され、素人には実に分かり易かった。

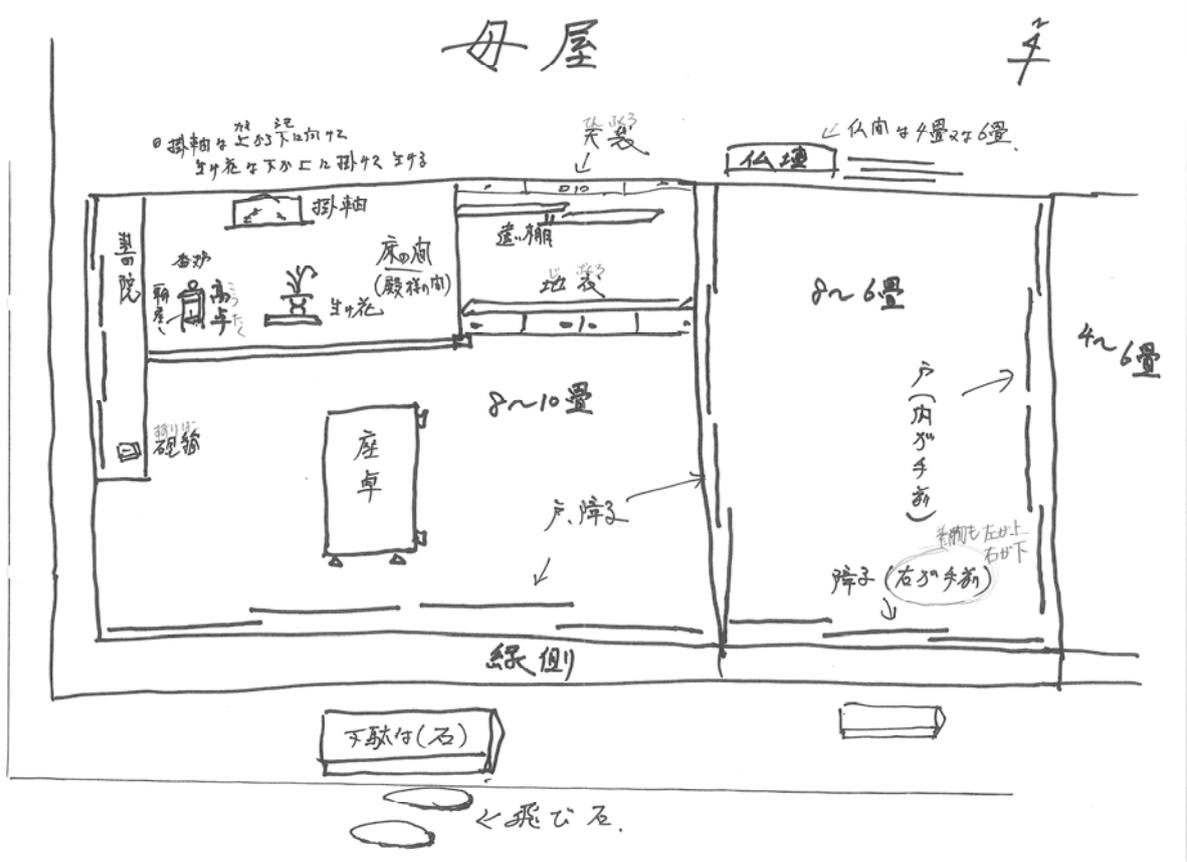
なぜ庭師さんが庭以外の建物のことまで講義されるかが最初は不明であった。しかし3箇所見学して廻るうちに、庭は色々な方角から見るものであり、建物の間取りや置物の配置まで詳細な知識が必要なのだと、その理由が分かってきた。

順次見学した庭園1～3は、築造年の長短や敷地面積の広狭等、多少の違いはあるものの、配布図面と比較してもその主要な部材の配置ルールは同一であった。

（図-1：敷地内の配置図）



(図—2：母屋内の見取図)



3. 視察した庭園（1～3及び松翠園）の現状と私の感想

1) 庭園 1

訪問先 1 番目、斐川平野のほぼ中央、戦前からの斐川町の名士である A さん宅を訪れた。反り形の築地松に囲まれ、明治時代に築造された広大な庭園で、一般庶民が所有する庭とは一線を隔している。庭中央の真松は典型的な寿形で、こんもりとした盛土の上に植えられ、土台は苔を被覆した自然石で囲み、木の根元が見えることが出雲流の条件である。座敷縁側から見渡して、左手から右へ春→夏→秋→冬と季節をあしらい、春日灯籠や天水石（水を溜める石）、そり橋、荒砂を敷いた飛び石等、出雲庭園の規則とおりに配置されていた。



庭園 1：住宅敷地の全景（築地松、門掛け松）



庭園 1：庭園と屋敷母屋（中央が三島庭師）



庭園 1 : 敷地南西部の立石と雪見灯籠



庭園 1 : 敷地北西部にて祀られた荒神様

2) 庭園 2

訪問先 2 番目、宍道湖汀線まで約 2 km の B さん宅（築年数が割と最近）を訪れた。

縁側から庭の全容が眺められるようコンパクトに纏まり、中央の寿形松は出雲流で根元までしっかりと見えた。反り橋の奥にはアイスクリーム型のラカンマキの木、春日灯籠が目立つ。門掛け松はやや若かったが、盛り土と築石で見かけを大きくする手法であった。



庭園 2 : 玄関アプローチの両側に門掛け松



庭園 2 : 反り橋と寿形松（根元が見える）

3) 庭園 3

訪問先 3 番目、宍道湖堤防が間近に見える C さん宅（近年の干拓地内に造成）を訪れた。今回の訪問先の中では築年数が最も浅いが、縁側の靴脱ぎ石からの飛石とカゴ石の配置、また樹木数も多くなく割とスッキリ感があるものの、出雲流庭園の主要なポイントは押さえてある。



庭園 3 : 荒砂、角石と小形松、手洗い鉢



庭園 3 : 寿形松、荒砂内のカゴ台石と飛び石

さらに庭園奥部の立て石の後方には、背の高い樹木も配置してあり、これもまた出雲流の定番である。一方で、築石にはコケ類が無くやや寂しい感も受けたが、低木ツツジがその不足部分を補っていた。

4) 松翠園

斐伊川河口まで約2kmの右岸側、旧平田市島村町にて営業中の松翠園を訪問した。以前の斐伊川は現位置より南側（国道9号寄り）を流れており、そこが平田と斐川の境界である。つまり現在の斐伊川の流下断面内には、以前には住宅敷地や耕地が広がっており、松翠園もその斐伊川河川敷地内に屋敷を構えていたが、改修に合わせて移築され現在に至っている。



松翠園：門座敷（門の両側）と周囲の土塀



松翠園：母屋までのアプローチを演出



松翠園：茶室「楽々」と前庭、天水（水を溜める石）



松翠園：短冊石、飛び石に白石を利用（3方向分岐）

三百坪の庭園は、枯山水の荒砂の粒子が場所毎に使い分けられ、また3方向別れの飛び石の一部には白石も使用されており、昔の富を強調している。真松の根元部がはっきりと見えない部分が、やや残念であった。

今後の庭づくりの参考として、庭園に使用する樹木としては、梅などの実の成る木は縁起が良いものの、椿や山茶花など咲いている花が「ポトツ」と落ちる木は良くない、とのことである。また、樹木の一部にソテツを植えている出雲庭園もあるが、これも「昔の富を誇張した流れ」とのことである。一般庶民としては管理費を考慮し、樹木数を間引いても十分満足できる庭が出来るのでは、と感じた一日であった。

—以上—